

講演の感想

内藤信志

講演を聞いて、とても戦争がこめくおそろしい  
と感じました。死人の遺体を、もやすため  
にかついで、もやすところにも、こりくのが、とても  
きもちわるく、つらうと思われました。原子爆た  
んは、とても破かり力が大キリと知りまし  
た。約二万人の人が広島だけこで死んだ  
のは、とてもざんこくだと感じました。息をばど  
あしこがひがたれすが、こりる人を見たら、と  
こもきもちわるくて、目をそらすしかかった  
のに、池田さんのお母さんは、その人を、トラップに  
のせて、助けようとしたのは、とても勇気が  
なければいけなりの、よくぞきたと思ひました。  
いと鼻に帰れると思つて喜ぶで帰つ、こりたら  
、女の人におうきゅうはちや、うじむしをとるな  
んど、すぐいと思ひました。原子爆だんの破かり  
力は、タンクでかこまれてこるのに、十メートル  
もとばされたのだから、原子爆だんが、おちた  
ところにも、とひがひがあつたのだから、人はものす  
ごく死んでこりると思ひます。戦争は、とても、  
だんこくなので、やめてほしいと思ひました。

# ヒロシマの九日間

桜井梨那

11日は日の原爆の話 をしこくをしました。  
私は井田キタの話 を聖ニコニコのアルバム  
もどきを見たりたので、さあ、ニコニコのアルバム  
の思っ、たけども、うう、うう、うう、うう、うう、  
死んでいゝ人がいたと思つては、か、た、た、  
ツシかなしくなつてきました。  
そこで、原爆は、地面で爆発したのかと思つたら、  
空中で爆発したと聞いて、おぞましかったです。  
しかも、死体を焼くとは、思ひました。  
そして、原爆の中心地のから、まだ生きてい  
る人がいたと、話を聞くと、びっくりしま  
した。その水も熱いし、ロケットのエンジン  
も熱いので、井田キタのノートは、なにか、なにか、  
の思つてました。  
そして、最後の手紙は、とても感動したし、  
おぞましかったです。  
それから、おぞましく、ヒロシマの原爆のことを  
伝え続けると、ほしくなりました。

広島の日記

高山 彩

私は原爆の被害については広島と長崎におち  
ちぐらいいか分かっていなかつた。池田さんの  
被害をきいて原爆が落とされたとき、広島  
はとてすばいことになった。ていとうがなかり  
そのとき小学生だ。何りまじ幼い子供たちは自  
分たちの住んでる町に原爆を落とされてか  
いそうだなと思いました。

たぐさんの死者やけが人をばすほど、原爆は  
とてもおそろいものなんだなまと思いました。

池田さんのお父さんけがをした人たちを  
おんぶしたり、かんでぶついたりしてま  
な役割を果たした人なんだろうなまと思  
ました。私たちも池田さんから聞いたはなし  
を大きくって戦争をせぬないでもらいた  
いから色々な人をはなしていきたくと思  
います。

関 渡里

私は少しだけだけ原爆の話は、こゝまにま  
した。少しだけだけでは、このガッパの  
が、あの日の夕方に原子爆が、あつた  
明くの人がなくた、た、こゝまにま  
熱風が来るコトを、そのくは、こゝまにま  
した。でも、私がしつた、た、こゝまにま  
ついたのは、手あひ、あつた、こゝまにま  
あつた、つた、あつた、こゝまにま  
ました。そのつた、あつた、こゝまにま  
こゝまにまに、原爆の話、あつた、こゝまにま  
コトは、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
い出ている、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
話、あつた、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
の、あつた、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
で、あつた、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
した、あつた、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
もう二度と戦争は、あつた、あつた、あつた、こゝまにま  
ました。

# ぼんばくの話

島谷 和希

ぼくは、昨日げんばくの話も聞きました。  
まず初めにびっくりしたことは、本でござい  
まするほどわけどして人がいたと書いてあったけど  
ほんとにりるとは、思ひませんでした。死体を  
運びだとき、グアグアとした音が、背中がぬ  
れるのを想像すると、気持ち悪くなりうじ  
虫も相想像すると、気持ち悪くなりました。  
ぼくがそのときに生きていてモノクロの世界を  
歩いていたら、さぞくを感じ、歩いてもくたな  
くなるのに池田さんは、早く歩くと死体運びな  
どができたと思ひました。次にびっくりしたことは  
ウラン、原子爆弾、日の高の熱、それは、巨  
ろで、なんこそれをくらった人は、しんで死ん  
でしまつと思ひました。ウラン、物質、たん「リト  
ニウム」は、すぐく危険なので、直接「キロ  
メートル以内」にいた人は、すぐアゴころころする  
ままでのわけどをしたと思ひました。それからは、  
日本は「戦」争を、しやいと決つてよから  
たと思ひました。ぼくたちにお話をして、  
ただいて、ありがとびがりました。



# 原爆の話

興津治一郎

10月13日に原爆の話をしていただけもありがとうござい  
ました。とても印象に残った所は、人を助けたくても、  
助けてあげられないという所です。ぼくは、こんなにもせつ  
ないことなんだなあと思いました。この原爆は  
広島市の人口を半分以上とまきこおので、とってもおそ  
うしい事なんだなと思いました。ぼくがとっても  
いやな所は、皮膚がボロボロ取れたり肉がはかれた  
りする所です。そのせいで人間にみえなくなる  
ぼとともかなしみを感ぜいませ。二度又とこの  
話をあすれません。ほんとつにありがとうござ  
いしました。

広島島の九日間

半澤 泰次

約60年前 原爆が<sup>サ</sup>落とされた話を聞いて、

原爆は、とてもおそろしいのは知っていたけど、ゴルフホール位のウランが<sup>爆</sup>発してあれほどのイカがあるのは、

初めて知りました。

池田さんのお父さんが原爆にあっ

た時はドラム缶があったから助かったけど、他の中心地の人たちはどれほどの<sup>熱</sup>線をあびたか、想像もつきません。池田さんのお父さんがその後見た後景は、だいたい相想像がつかえます。原爆が落ちた後、生きているのがやっとのむとただ人達が行こうとする場所は、川や防水そうだったのでおどろきました。

人の本能だと思いますが、やはり<sup>水</sup>を求めている、<sup>空</sup>気が持ちが分かります。

今日の話を聞いて原爆がどれほど恐ろしいかあらためて知りました。



ヒロシマの九日間

野松 さや

私は、「ヒロシマの九日間」というお話を聞いて、原爆のおそろしさを知りました。私自身、原爆をけいけんしたことがないので、原爆のことを知りたかったと思います。でも実際お話を聞いてみると、おそろしさを感じました。原爆を受けて、皮ふが垂れ下がり、手を前に出して歩いている人、兵士たちに「助けて」と助けを求めろ人、想像するだけでも、原爆をうけると私もこんな風になってしまふのか、と考えながら池田さんの話を聞いていました。遺体を背負ってほこび、その遺体を焼く人のことを考えると、しかたのないことでも、つらかったです。遺体からはすごいにおいがするのにもたえて、ほこんでいるんだなあとと思うとすごい勇気だと思いました。この話を聞いたら、おそろしさのほかには恐怖もわいてきました。これを語りつぐ人がいなくなるというのとはとてもぜんぜんなことです。と思います。

広島島の九日閣

小松崎翔五郎

ぼくは原爆の事を「ぼくしのグリーン」という本であるとい  
いは知っていると思っていました。だけど今回池田さんの話  
を聞いてミミガと話ではまるで違う事がわかりまし  
た。

一番おどろいたのはみんなが川に飛びこんであと  
いうことでした。みんな熱い熱いといながら原爆で  
熱くなった川に飛びこんでまるでゆでダコみたいにな  
ってしまったのはかわいそうかなと思っていました。  
でももしぼくは原爆にあたり迷わずに川に飛びこま  
と思っていました。

もう一つおどろいた事は皮膚がたがわね内臓骨  
が回れななことでした。  
ぼくはこの時代に生まれてこなくて本当に  
よかったです思いました。

広島島の九日間  
原爆の話

伊東 祐甫

キのうら、五、六時間目に池田さんがきて、広島  
 の九日間原爆の話をしてくれました。この話  
 は、六十三年前に広島に原爆がおとされた、  
 話でした。おとされたあと、広島は、もう危険  
 な状態でした。そのとき、人は、燃え入っていたそ  
 うでした。ぼくは、そんげに広島は、危険な状態  
 だったということがわかりました。広島は、つ  
 ぎは、長崎に原爆がおとされました。はだ  
 しのゲリとはちがって、すくなく危険なことでし  
 ました。九日目にある女の人か、たて物の中にかん  
 づいてたすけられました。ぼくは、ほんとう  
 によかったと思いました。原爆や戦争は、か  
 なりの危険なことがわかりました。広島め  
 九日間原爆の話が聞けて、すくなくいろいろと原  
 爆のことがわかりました。

# 原爆の話

鹿上 龍子

私は原爆の話は教科書や本とか  
でしか見たことを仲間共にかありませ  
てした。

たけど今回の池田さんの話を聞いて、原  
爆かうの九月間は私にとってわか  
りません。そしてたてを思ひます。原爆が  
落ちる時、話に出る来ドラムかんの  
あゝ場所にはなま。原爆の  
中で死んでたかもしれないので、  
本当に助かってよかったと思ひ  
ました。

川に散らしていた一死体を見た時は  
怖れた。てんごしたくない。と思  
うのにそれをした人はすげえと  
思ひます。

本名を見てても原爆はどんな感じ  
で落ちたかとはどうだ。たか、な  
かはわからなかつたけど話を聞くと  
本当に原爆はおそろしいなと思  
ひました。

原爆とかかきかきする。ない時代  
に生まれて本当に怖がったと思  
ひます。

ヒロシマの九日間

重又 愛実

私はこの話を聞いて昔の人はロマンだ、たんだく初めて知りました。最初、どうゆう話なのか私は知りたくて、池田さんから聞くと

お父さんは軍隊の人で広島へ行つて、8月、トラックを待っている。

いろんな暗い光が来て、軍隊の人達は軽傷で落ちた。トラックの運転手もがした。多くな人がひびきをうけ、「軍隊さん、助けて」と聞こえて、できるだけ多くの

人が乗れるようにと手をかまて、ひびきがわけて肉の部分だけがみえた。うです。その人は運び終わり、死体の焼去作業の時、死体を探しても

どこにもなくて、ただひつう救助の時に使う木の所に、一休、一休あって、おんがし顔がかたに來るとしても私はぞうとしました。それを何日もくり返し、軍

のほうから、まど、マン、マンと言わゆる指令が来て、原爆がおちる九日後、や、と帰れるようになり。また、原爆がおちるといふうわさもあり、不安だ、た

時間にな、マも落ちてこなくて、寒した。でも実際に落ちたのは長崎だった。

私はとてもこの話を聞いてとても怖くな、た。でも、とてもいい体験をした。

思い出した。なかからもいろんな人にこのヒロシマの九日間、伝えてもらいた

いす。

# 原爆の話

堀田 直輝子

私は広島に原爆がおちた事は知っていたけれど、広島には達か  
いるわけでは無いので、そなたに話をしてました。

でもきのうの話聞いて、なつかた事のもうなとかが  
しませんでした。

話を聞きながら想像していると、とても大分た  
事が目につかびました。

日本はもう戦争はしないと書いていますが、

またもしそんな事があったら自分はどうなるのか  
なあ、そんな心配してみたり、たまたまだけのうらんで  
広島の時全てを焼きつくしてしまおうなんて、

東京に今原爆がおちたら、きっと生きのこる人は  
いないと心配します。

もうそんな事が、たいないように、

これから色々な学校へ行つて広島に原爆に  
ついて話をして下さい。

私はきのうの原爆の話、忘れません。

セロニマの九日間

木村 美那

11月13日に63年前の戦争の話を、池田さんと  
いっさんが話してくれました。池田さんのお父さん  
の実体験を話してくれ、とても大変だったんだか  
と思いました。

私は、戦争がどんな風に起きたか。というのは、  
全く知らなかったため、池田さんの話を聞き、  
とても勉強になりました。池田さんのお父さんは、  
遺体を探し、収理していたという事を知り、とても  
つらかったみたいです。と思いました。

遺体を埋めようとするとき、体が、おけで  
していて、土直ッ赤になつていたり、皮膚がボロボ  
ロを落ろたりしていたのを直接見てしまつたこ  
話を聞いて、今でも、その事とは

忘れられないです。でも、体が、た  
かろうかな。と思ひました。

私がもし、戦争をしていた時代に生かされていたら  
らスゴく怖くて死にたくない。と思つたので、戦争  
をさくなくてよかった人がスゴくおもしろいかな  
と思ひました。

原爆の話

岩澤 凌

ぼくははじめて原爆の話を知り、まぎ最初に  
原爆や戦争はこわいなと思いました。

戦争の中で生きていくのは大変だと思いき  
た。池田さんのお父さんはそんな大変な戦争の  
中で生きのびてすごいいました。被爆者は  
夜が来ると落ちたり、やけどをもらって  
してかわいそうだなと思いました。原爆の由が  
のびや放射能などのことろいしようかのこ  
たいへんだと思います。

ぼくは戦争や原爆のこわさを学び、  
戦争のない時代を作りたいと思いました。  
こわいと思います。



# ヒロシマの九日間

丸山 甲斗

ぼくは、学校でめだしのゲインとこの話を読んでいたので、広島での出来事はけっこうしていただきました。けれど池田キートの話を聞いてみると全然違うところのところがあって、もっとおそろしい出来事だった。と思いました。

原爆の落ちた所にはなにも無くて、そこで遺体を探せとこの頃は本当につらくてかわいそうだと、思いました。それから爆弾は、スリカでゴルフボールくらいの大きさで聞いて本当におどろきました。ぼくは、改めて戦争は絶対だめだと思いました。

ロシアの九月革命

長四巻で

先日はあいがとうへ送りました。このおかげで島崎の  
と日蘭の念で想やを書きよませ

ぼくははまきしんせい、ソウフス、がむげんぼく  
の事はあつたといふ事が知っていました。でも  
このヒロシユも日蘭を聞いたのうらぶらぶが  
ぼくの事があつたといふ事ばかりよりのうらぶらぶ  
しんせいの、てきまじしんせい、のうらぶらぶ、ぼく社  
げんぼくのしんせいのうらぶらぶ、あつた、  
しんせいのうらぶらぶ、いふ事だ、いふ事だ、  
がんせいのしんせいのうらぶらぶ、知る事だ、  
ました。ただ八百グラムのおうらぶらぶ、あつ  
までの、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、  
くは、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、  
た。この事を聞いた、あつた、あつた、あつた、  
あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、  
世界にだ、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、  
あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

# 原爆の話

木暮実祐

ぼくは、本で原爆爆のことは少しはし、てい  
ました。本だけならいいけれど本当に自分か  
に任  
ているところにそんなことがあつたとい  
うたいます。思いました。広島は、原爆爆を  
とされて回りはなにもありません。二  
つに、なにもないでとんたかんだのた  
と思いました。原爆爆がほととせれた中心に  
いところは、百度に近いといわれ、な  
あつたといふこと。たいた人は、おと  
ピカッといひかた直後に、しんが  
ます。原爆爆がほととせれた一番あつた  
でも二、三度とまいておとせました。そ  
とける温度は約千三百度とい  
老の二倍の力があるといふので、あつた  
原爆爆の二倍の力の元のウランとい  
ゴルフボールのようた、大ききでば  
と広島を主体をこちす。ほとどのリ  
いともものすごいものだと思  
はんだんをおとせれた広島は、本  
いそうだし知りませんでした。

# 原爆の話

山本大貴

ぼくは63年前の広島と長崎の原爆について  
は「はだしのゲン」を読んだのでなんとなくは  
知っていました。

池田キムノの話を知って一番かあさんだったのが  
原爆でヤケドなどでケガをした人達に  
何もできずただ見ているだけというのが  
かあさんででした。それに広島県ではほぼ無ギンズ  
の人のほうが少ないというのがビックリしました。  
広島に使われたウランは約ゴルフボール  
位の大きさだったというのを聞かしても  
バスケットボール位だったらもうギンズとい  
なってしまっただなと思っりました。

池田キムノの話を知って広島に原爆がおちて  
色々なことが変わってしまっただなと思っ  
今は平知アソソななと思っりました。

ヒロミマの九日間

渡辺 亜由美

11月3日(木)に池田さんが広島市の原爆の話をしてくれました。池田さんのお父さんが原爆の話をして池田さんにして、そして池田さんが6年1組と2組にその話をしました。私は広島市の原爆のくわしい話を聞くのは初めてでした。最初は、広島市に原爆がおちるちよく前と話をしてくれました。題名は、運命の15分でした。私は、15分が経過したら原爆がおちってくるのか。と思いました。そして原爆が落ちて、いかなん人が死んでしまったり、まだ生きていゝ口を動かしている人もいました。死にそなへ人を助けて上げようと、うづごかをつかむとやけどをしたひふがむけ、くずれまゝさすまい、助けたくても助けられない。と泣いていました。私は池田さんのお父さんが実際にそういう体験をしてくすぶつらかったんだなと思ひました。原爆のお話をくわしくしてくれましたありがとうございます。ありがとうございました。

# 原爆の話

鈴木紗央利

私は戦争か、どんなに口づらくて悲しいものかわからなかったけど、話を聞いてとても大変だった。このことかわかりました。池田さんのお父さんは8月6日に広島で燃料加まんたんに入れたドラム缶によりかかりトラックをまわっていました。8時45分広島にエノラゲイが著とされました。爆風で数十メートルとばされたと言っていたけど、け加はなくてよかったです。思った。トスグは原爆が著とされた時トンネルに入ったため助かったそうです。きせきたななと思いましたが、爆心地に向かえと命令がありトラックを移動していると初めのうちは人間だった。爆心地に近づくたびに人々の顔や体はやけどで赤くなっていて、助けを求める人をトラックのせようとしても肉がはかれちゃうそうです。それから休むひまもなく死体をヤキ続け手あけをしたそうです。そして8月9日一人が原爆が著とされる。いい十時ごろにはみんな丘の上におかりかくれていたそうです。しかし落ちてきませんでした。そのころ十時二分長崎に原爆が著とされました。人口のほとんどが死んでしまい、け加をしてみました。こんなことはもう二度とおぼしくないと、思いました。

# 平和の願い

齋藤直己

池田さんには、わざわざ本校まで足を運んで下さり、ありがたうございました。貴重なお話、心にしました。僕の曾祖母も戦争体験者の一人です。曾祖母は千葉県生まれで、曾祖父と結婚してすぐ、東京にきました。そして一九四五年三月十日が来ました。その日、曾祖父の仕事は昼でしたので、夜は家にいました。ちるといきなり空からばくだんがふってきて、まありが火の海だったという事です。そして、すぐにすみ田川に飛び込み、一晩川にいたとの事です。曾祖母は泳げなかったたので、曾祖父がいたなかったら生きてはいなかったと、今でもくり返し、くり返し語っています。僕は、池田さんから聞かせていた話を聞いたお話を、曾祖母との体験を聞き、ほんの少し戦争は、もう二度とおこしてはいけないという気持ち強くしました。原爆というものは、この上のような時であれ、決して使ってはいけないというものであると思ったり、人の心にまあるい平和というものを作らなければと思ったりしました。お話、本当にありがたうございました。

けんぱくの話

小松 謙祐

13日に池田さんがけんぱくの話をしてくれた。ぼくは前から「はだしのケビ」や「テシビ」などけんぱくが広島や、長崎に落ちたとされたというのは知っていたけれど、けんぱくはどっから作られるのか、何人のひがいが出たのかという所までは分かっていませんでした。だけれど池田さんは、お父さんの辛い過去を話してくれたり、自分が全く知らなかった事を教えてくれた。

もし自分が池田さんの立場になったら、全然<sup>全然</sup>落ち着いていたら絶対に、池田さんのような落ち着いた、行動はとれなかっただろうかなと思います。

ぼくはもうこんな事が世界中で一牛<sup>一生</sup>おきてほしいかないなよと思心<sup>心</sup>しました。このでキ<sup>ご</sup>ごとは一生忘<sup>わ</sup>れてはいけな<sup>い</sup>かなよと思<sup>し</sup>ました。







# 原爆の話聞いて

大宮小六年 木村茉莉

私は池田さんから、池田さんのお父さんの戦争体験を聞きました。

池田さんのお父さんと、その部下の人達は色々な好運のめぐり会わせで原爆からのがれたそうです。私には〇〇があったから死ななかったというよつな自分の生命にかかぬる出来事はありますせんが、戦時中ならそのような事がしょっちゅう起きていたのだと思いました。

私は、「はだしのゲン」を読んだ事があり、その中には、池田さんのお父さんが見たよつな、川の中に飛び込んで死んだ人や、消火そつの中で死んだ人の絵が書いてありました。また、ウジ虫がわいて、体が臭くなり、これにも見取られずに死んだ人達もいるそつです。

池田さんの助けた二十才ぐらゐの女の人が生きていたという事はとてもうれしかたです。今後、原爆の話が消えてしまわぬようにしようとして、世界や日本がまた同じ事をくり返さないよつに、私は子にも孫にも伝えていきたいと思いますと思ひます。

平成二十年 十二月十四日

